

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2018年3月1日
(No. 89)

2018
*
3月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (17)

新河岸川 (袋橋)

柳瀬川との合流点から新河岸川を上流に進むと約 1km で袋橋。袋とは昔の新河岸川が大きく蛇行して袋状になっていたことによる地名で、その蛇行した流れの跡は雨水排水路として今も使われています。袋橋の下流 210m の右岸から別所排水機場を通して流入する水路（通称水谷田んぼの排水流末）と、同上流 180m から流入する水路（昔の川の流れと逆になっている）がそれ。蛇行した旧河川は袋橋左岸側の千光寺裏にもありましたが、ここは埋め立てられ住宅地と志木高校のグラウンドになっています。写真は袋橋から下流を眺めたもので、低水路にゆったりと流れる様は柳瀬川とは全く違います。（天田 眞）

侵略的外来生物のモニタリング調査について

当会では2009年度から、埼玉県が実施する生物のモニタリング調査に毎年参加しています。これは、県内の自然環境保全活動を行っている、約30～40団体が参加し、それぞれの活動フィールドを中心に、指定された調査を行い、結果をデータベース化し、生物多様性の変化の把握や、各団体や県民が調査結果を共有できることを目指したものです。2009年度から2015年度までの調査対象種は外来種を中心に、絶滅危惧種などの在来種も含めたものでした。

2016年度からは侵略的外来生物県民参加モニタリング調査の名称で、新たな仕様で行っています。当会の調査地点は、2016年度は志木市の中心的部分の8か所を対象に、2017年度は市内の残り12か所と富士見市・新座市の計20か所で行いました。

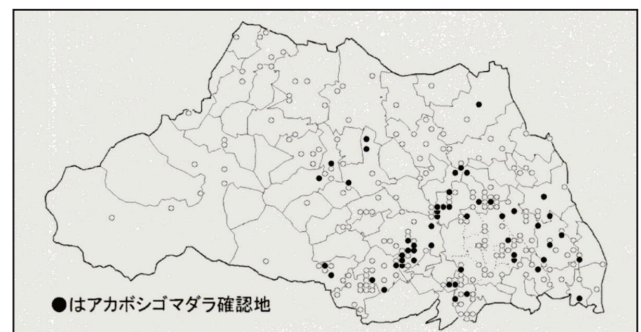
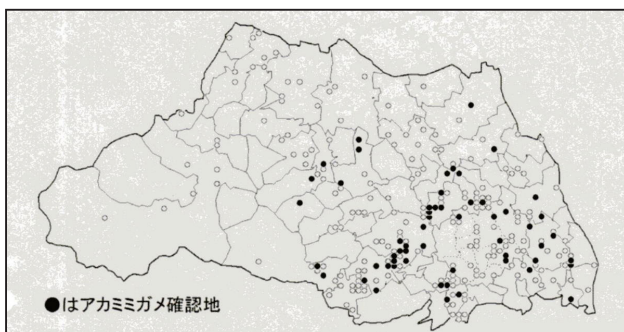
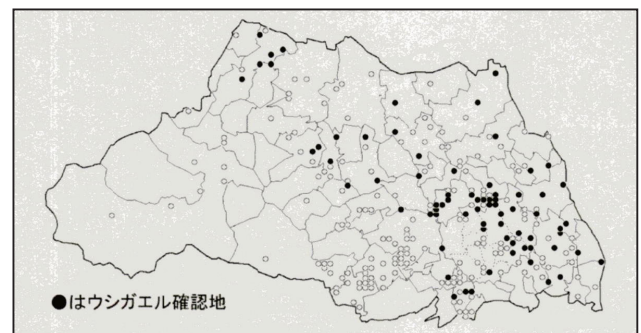
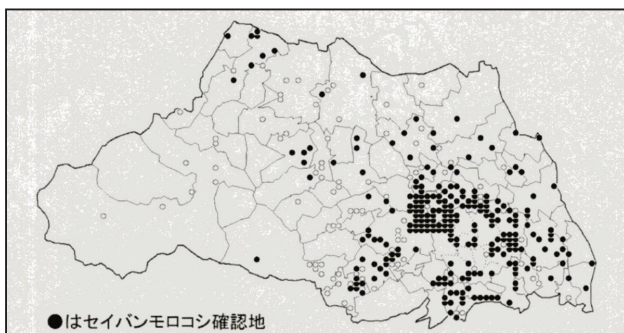
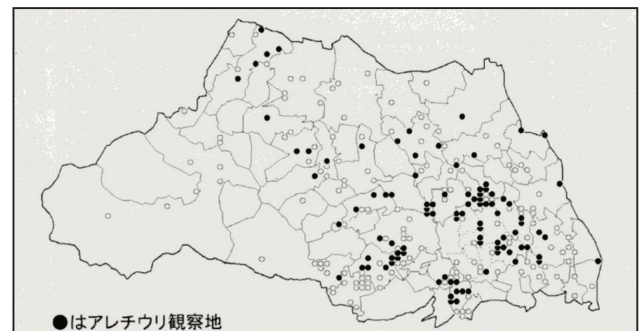
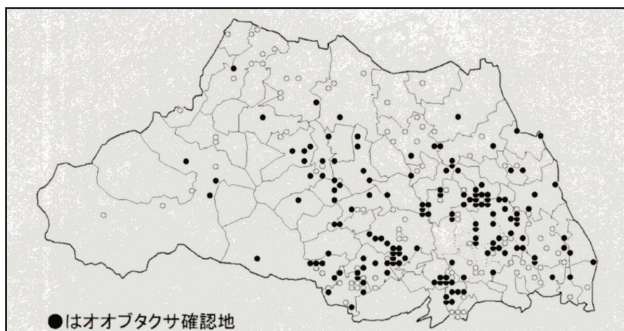
侵略的外来生物とは、外来種の中で自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かす恐れのあるものをいいますが、調査対象は、環境省作成の

生態系被害防止外来種リストの掲載種の中から、特定外来生物・緊急対策外来種・重点対策外来種等を中心に県から指定されたものです。植物では、アレチウリ・オオカワヂシャ・オオキンケイギク・オオフサモなど126種で、調査時にこれらの種を確認した場合に、その生育段階と数量を記録します。動物はアライグマ・ガビチョウ・ウシガエル・オオクチバスなど22種で、発見した場合に数を記録します。

当会の2017年度の調査は、会員4～6名程で、春から秋に毎月1回程度、対象地区を2時間程かけて移動しながら行いました。

以下の図は2016年度の調査結果の一部ですが、○は調査対象の場所、●は対象種が確認された場所で、まだ調査地に偏りがあるため正確な分布とはいえませんが、今後も調査が継続され充実したデータになることが期待されます。

(天田 眞)



柳瀬川のあらまし (4)

台田団地付近と低地にあった水田

左岸側の金山調節池に対し、右岸側には川に沿った遊歩道やサクラ並木（台田運動広場）が続く、道路を隔てて、少々古くなった5階建ての台田団地が、川にそった細長い低地に連なっています。台田団地前の右岸は古いコンクリート護岸で水際部は垂直、左岸は対照的に豊かな河畔林がある天然河岸ですが、ここから下流は今後整備対象になる区間です。

前回取り上げた空堀川との合流点あたりから下流は、川沿いの低地が広がってきますが、こうした低地（台田団地や金山調節池等）は、かつて水田だったところで、田植えが近くなると、柳瀬川を何か所も堰き止め、田に水を引きこんでいたそうです。堰造りの作業の様子や当時捕れた魚などについて「川づくり清瀬の会」編集の「清瀬の川物語」(平成28年)に地元の方のお話が載っています。

台田団地の後ろには斜面林が続いており、清瀬市の保全林が2か所に分かれてあり、市民グループが保全作業を行っています。その内、台地の上の柳瀬川通りまで続く「台田の杜」では、かつて生息していたオオムラサキを復活させようとの事業が行なわれています。

下宿地区と滝の城址公園

台田団地が終わり交差点を渡った下宿地域市民センターの東側には、昔からの下宿集落の道が残り、村の入口の樹木には稲わらで作った大蛇がかかっています。毎年5月初めに「ふせぎ」行事で新しく作り替えられるもので、悪い虫や病が村に入るのを防いでいます。

城前橋を渡った左岸側は所沢市の「滝の城址公園」。川沿いの低地は運動公園で、崖線上の城跡には土塁や空堀が残りますが、志木の柏の城と同じく大石氏の城で、1590年に豊臣秀吉の勢力により同時期に落城したそうです。

東川との合流点

関越高速道の下を潜ると左岸側から東川が合流します。東川は狭山丘陵の北東に源流があり、所

沢市街中心部を流れる一級河川。市街地は拡幅が難しいため、洪水時に越流させた水を溜める地下河川をつくっています。以前は東所沢駅北の川沿いに、所沢市の下水処理場がありましたが、廃止されて水質はよくなったものの普段の水量が極端に減りました。その少し下流には日々田調節池が工事中ですが、ほぼ完成しています。東川は殆どの部分が急傾斜のコンクリートブロック護岸の掘り込み河川で、柳瀬川との合流点をはじめ所々に落差工があり魚の遡上は困難です。（天田 眞）



1. 台田団地前（金山調節池の直下流）



2. 下宿地区入口にかかる大蛇



3. 流入する東川、奥に落差工が見える

2月4日（日）志木の自然観察（冬）

柳瀬川の野鳥

2月4日（日）、志木の自然観察（冬）に参加しました。当日は会員を含め13名が参加、幸い風も弱く日差しの下で楽しく観察ができました。

柳瀬川駅のサミット前に9時半集合、初めに天田代表から挨拶の後、柳瀬川の土手に上がり観察をスタート。東上線の鉄橋付近、コガモが川面に、セキレイの類が中洲や川岸を飛び交っていました。

富士下橋を渡って左岸に移り、川原に降りて天田代表から柳瀬川の特徴（土砂堆積と河川維持工事や昔の蛇行の跡など）について説明を伺いました。

水際には胸の黄色の鮮やかなキセキレイが見られて感激、地味ながらタヒバリも多く見られました。ツグミがトコトコ走るのは微笑ましく、水際にはイソシギやイカルチドリが行ったり来たり。

高橋では灌木にメジロが群れているのが見られました。右岸に移りコンクリートの護岸越しに川



[写真：青木明雄]

面に群れるカモ類（ヒドリガモ、コガモ）や中洲のイカルチドリ、飛び交うセキレイの類、オオバンやカイツブリを観察しました。村山快哉堂の裏手、新河岸川にもヒドリガモ、コガモがたくさん、オナガガモの優美な姿も見られました。

アオサギ、コサギ、カルガモなども含め、配布資料に記載した種類を観察できて、よかったです。（鈴木民雄）

志木の生き物調査について

今年度からこれまでの柳瀬川ウォッチングに代えて、市内のいろいろなところの生き物調査に行ってきました。また柳瀬川の魚や昆虫などを捕まえて水槽に入れて行う柳瀬川水族館もこの事業の1つとして行っています。今年は、6月、8月、10月、11月に柳瀬川水族館を行いました。去年は、小学校の総合学習や柳瀬川であそぼう等で川に入って魚や昆虫の採り方を教えたりするとはありましたが、柳瀬川水族館は、1度も行いませんでした。川に入って、川の生き物を調査していると、柳瀬川の変化も良く分かります。土手を歩く人が、立ち止まって見てくれました。普段何気なくみている川に、これだけ多くの生き物がいるということを知ってもらい、とてもよかったと思っています。

市内の生き物調査としては、7月に親水公園、9月に荒川堤外、12月に柳瀬川周辺、1月に柏町と本町周辺、2月には新河岸川周辺について行い

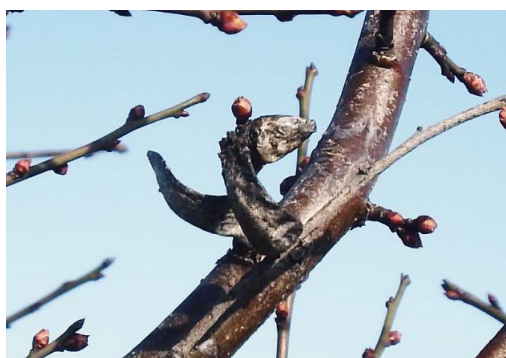


ました。去年は、調査としながらも観察中心の活動でしたが、今年からは、見つけた生き物をできるだけ記録していきたいと考えています。今の時期は、沢山の冬の渡り鳥が、新河岸川や柳瀬川に來ています。見てみましょう。（青木明雄）

12/17 柳瀬川周辺

寒風ながら晴天のもと、12人で土手と水谷田んぼ約4kmを歩き、調査観察。田んぼの水路脇に数本のウメの木があり、その枝に、バッタ、ケラ、ドジョウがそれとわかる姿で刺され干からび、「モズのはやにえ」の見本市さながら。モズの姿はありませんでしたが、タヒバリや、アオサギ、水路の中で採餌中のタシギを観察。

水谷田んぼの休耕田のガマの穂にも驚きました。押しつぶすと、衝撃的なほど大量の白い繊細な綿毛（穂綿）が出て風に飛ばされていきます。これが、「いなばの白うさぎ」の傷を癒したものと調べてみると、敷き散らし寝転んだのは初夏の頃の黄色い花粉、ほおう（蒲黄）なのですね。



水谷田んぼのモズのはやにえ【写真：青木明雄】

1/21 柏町および本町 周辺の公園や緑 地を中心に

柏町ふれあいの森；スギ、ケヤキ、ムクノキがそびえ、ツバキが咲き、林床にはハコベ、ムラサキケマン、タツナミソウが生育。シラカシ、シロダモも確認。

館氷川神社；いつもは意識しない樹木を一本一本チェック。トウネズミモチ、クチナシ、ヒサカキ、マテバシイ、ゲッケイジュ、モッコク、チャ。クチナシのオレンジ色の実が目を引きます。

宝幢寺；イチヨウ、ケヤキの大木、タラヨウ、コウヤマキ、ヒマラヤスギを眺め、羽根つきの羽根の玉になるムクロジの実を拾いました。

大寒翌日、対象は主に樹木と野草でした。

けいおうふれあいの森；イヌシデ、ヒノキ、タラノキ、センダン等観察。



館氷川神社【写真：青木明雄】

2/18 新河岸川左岸 いろは橋・袋橋 間周辺

快晴の中、キラキラ光る川面ではオオバンやヒドリガモ、土手沿いの反対側では宗岡四

小、志木高、宗岡中の、ヒマラヤスギ、シラカシ、マテバシイ、ワビスケ、ケヤキ、メタセコイアを観察。ヒマラヤスギの下で、シダーローズ（松かさ）が成熟し、種子が間に挟まった鱗片がバラバラになり、残った部分を初めて手にしました。バラの花そのものの形で、まさに造形の妙ですね。

河川敷のヤナギの芽、児童公園のアカシデの芽が赤くけぶっていました。

道路脇では、オランダミミナグサ、ナズナ、タネツケバナの小花を観察。ナガミヒナゲシやハルシャギクも、まだ小さいながらしたたかに生育していました。



新河岸川左岸【写真：青木明雄】

せせらぎの小径周辺の自然を訪ねて！

NPO法人エコシティ志木事務局長

青木 明雄



水路のあるせせらぎの小径

上宗岡5丁目交差点の大仙寺から荒川土手へと通じる「蓮田通り」と、いろは橋から秋ヶ瀬橋に通じる「いろは通り」との間には、3つの名前の付いた通りがあります。荒川に沿うような形の「あきはね通り」、新河岸川に近いところの「宿通り」、この2つの通りの間にある「せせらぎの小径」の3本です。「せせらぎの小径」は、地下下水道整備によってできました。全長は約1.8kmで、水と緑の遊歩道があります。

今回は、上宗岡四丁目の「蓮田通り」の入り口から「いろは通り」までの間を、東側の「あきはね通り」から、西側の「宿通り」周辺までの自然や緑地を訪ねて散策していきます。

「せせらぎの小径」に入って500mほどは、水路がありません。車道が真ん中にあり、両側に歩道があります。歩いてすぐのところに、左側のマンションに隣接した深町児童公園があります。1,010m²の小さな公園ですが、志木ハイデンスの広場と合わせると広い空間となっています。「せ

せらぎの小径」に面している部分が長いこともあり、実際の広さより、広く感じます。公園の中には木も植わっており、夏には、暑い日差しから守ってもらえるのではないのでしょうか。「せせらぎの小径」には、しばらく先まで、水路がありません。道路の両側にある歩道は、比較的広く、車道との間には、街路樹が植わっていて、きれいな並木道になっています。更にガードレールの代わりに、車道との間には、ブロックで囲まれた植え込みがあり、緑の帯が続いています。レンガ風のブロックを植物が覆いかぶさっていて、緑がこんもりしている状態は、運転している人の目にも優しく感じます。更に先に進むと右側に小分けされた農地があります。

所有者が近隣の方々に貸し出されているものですが、この3月でなくなってしまうそうです。農地とはいえ貴重な緑地がなくなってしまうのは、ちょっと残念です。

この農地から更に右手裏側の道路を越えた先まで、戸建て住宅の区画が点在し



深町児童公園脇のすすらぎの小径



宗岡銀座近くの遊歩道



宗岡浄水場近く交差点



すみれ児童公園

ますが、農地も広く残っています。この農地は、宿通りまで続き、更に宿通りを越えて、大小合併門樋のある江戸時代の堤防まで広がっています。広い農地だったところに、少しずつ住宅部分の区画ができていく様子が見えます。数年前には、宿通りと江戸時代の堤防の間のかかなりの部分が和光富士見バイパスとなってしまう、緑地が消えていくこととなります。その分、和光富士見バイパス道路が緑豊かな道路に整備してもらえるとありがたいですね。更に、いろは通りよりのところには、ネットの張られたゴルフ練習場があり、その隣には、スーパー銭湯があります。かなり前になりますが、ここはゴルフのショートコースになっていて、良く遊びにきました。ここには、背が高く円錐状に枝が広がるメタセコイヤが数本あります。残念ながら、ゴルフ練習場脇の1本を残して、上部が切り詰められてしまい、その素晴らしい姿は、形を変えてしまいました。

更に「せせらぎの小径」を進むと宗岡銀座商店街の手前から左に入っていく遊歩道があります。用水路を暗渠にして利用されている遊歩道で、足立みどり幼稚園まで続いています。住宅の間の狭い道ですが、ゆるくくねくねした歩道の両脇には、アジサイ、キク、スイセン、ウメなどいろいろな草木が植えられて、楽しく歩けます。宗岡銀座商店街の入口から先の「せせらぎの小径」は、道路中央部に歩道があり、ゆらゆらとゆらいだ遊歩道になっています。遊歩道の両側にはいろいろな木が植えられ、四季の変化が楽しめるようになっています。犬を散歩させている人も良く見かけます。途中から水路があり、せせらぎの雰囲気

気も少し味わえるようになります。休憩できる椅子がところどころにあり、宗岡浄水場付近には、小さいあずま屋の休憩場所もあります。宗岡浄水場の先で交差する左右の道路周辺にはかなりの田んぼや畑があります。住宅もありますが、宗岡の中でもかなり広い農地が広がっているところだと思います。右側は、宿通りの手前まで広がっていますが、和光富士見バイパスの予定地にもなっている部分があります。宿通りとの中間くらいにある「きたみこども広場」と「きたみ治水広場」もバイパス予定地となっており、大部分が無くなってしまいうようです。交差点から左側も、途中に住宅があるものの、あきはね通りとの間にある通りまで広がっています。その田んぼの隣には、かすみ児童公園があり、広さは、約3,000m²で、深町児童公園の3倍です。木も多く、田んぼ越しに見るとちょっとした林のようにも見えます。

更にいろは通りに向かっていくと水路の様子が変わります。それまでのU字溝のような水路から、皿のように緩く浅い溝を流れる水路になり、水の流れを目で楽しめるようになります。右側には、農地が広がっていますが、少し先で、いろは通りと交差します。

今回の散策は、ここまでとします。



バイパス道路で無くなる「きたみこども広場」



いろは通りからの入り口

志木小学校エコクラブ

志木小学校エコクラブは、二週目以降の木曜日6校時の授業の中でのクラブ活動です。4・5・6年生が対象で、地域の人たちが講師をします。

今年度は6月15日（木）から始まり、部員は昨年度からの2名を含む5名、担当講師は天田代表と私の2名です。

主な活動は校外で、柳瀬川や敷島神社裏、市場ふれあいの森、村山快哉堂裏、こもれびのこみちの池等にでかけ、虫捕り、植物の観察、魚捕り等を行いました。雨の日は、校外での結果の資料づくり等を行いました。柳瀬川をアオダイショウが対岸からこちら側に泳いで来たことや、こもれびのこみちの池の近くでカワセミを見つけたり、思わぬことにも出会い感動しました。

子どもたちは積極的に活動し、いろいろなことに興味を示しました。校舎屋上のビオトープは草ぼうぼうで残念なのですが、子どもたちと一緒にオギを刈ったり、クズのツルは太い木のように



なっていたのを伐ったりしました。短時間でははかどりません。新校舎ができたときのビオトープはどこへ行ってしまったのかと・・・

2月22日（木）は、クラブ感謝集会とクラブ発表会でした。素晴らしい発表と、子どもたちから私と天田代表に感謝の冊子をいただきました。ほんとうに楽しい一年間でした。（山口美智江）

1月14日（日）

「志木ぶらり散歩・・・柳瀬川、新河岸川の旧河川跡を歩く」に参加して

快晴なるも寒風の吹く中、総勢14名の方が参加されました。

最初に向かったのは、江戸・昭和・平成の各時代に築かれた堤防を臨めるところ。ここでその時代の治水に対する考え方が異なることがわかりました。次に志木市役所の土地の歴史について説明を受け、新河岸川が蛇行していた跡を埋め立てたところ、そして半分が富士見市から志木市へ編入されたことを知り、改めて市役所の建物を見ましたら複雑な気持ちになりました。

次に新河岸川除堤、水塚、下ノ谷堤等を見て歩き、洪水時にいかに苦勞したのか、そして、その対応策としていかに工夫してきたかを感じ取れました。特に水塚を見たのは初めてで、当時の洪水に対する人々の想いがわかりました。また旧河川の水路が蛇行していたため、この水の流れを改め、直線化により洪水を避け、早く海まで流してしま



〔写真：青木明雄〕

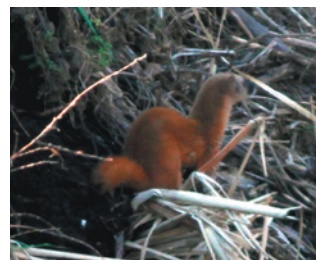
おうという想いも理解出来ました。

ところで、当時に建造された排水門跡にバイパス用地がかかっていることを聞き、このような歴史的な建造物は残すべきと思います。

さて今回の志木ぶらり散歩で当時の人々と河川との歴史的な関係を理解でき意義深い散歩会となりました。（本間敏文）

◆昆虫の越冬情報です[天田 眞]

- ① ヨモギハムシ→ 12月 11日(月) 袋橋左岸の草原に交尾中など多数。成虫または卵で越冬。
- ② キボシカミキリ→ 12月 27日(水) 西原第三公園。幼虫又は卵で越冬。
- ③ クヌギエダイガタマバチ→ 1月 22日(月) 11月に荒川堤外で採集したクヌギの虫こぶから成虫が脱出。その後に花芽に産卵。
- ④ ミナミアオカメムシ→ 1月 16日(火) 市民農園で収穫したハクサイの中から。成虫で越冬。



⑤ イタチ [毛利将範]

- ⑤ イタチ(1)→ 2月 20日(火) 水谷田んぼの中央の水路で、久々に会いました[毛利将範]



① ヨモギハムシ [天田眞]



② キボシカミキリ [天田眞]



③ クヌギエダイガタマバチ [天田眞]



④ ミナミアオカメムシ [天田眞]

環境

ひとくちメモ (47) 伊藤 智明

「野鳥との接し方について」

2018年1月に東京都大田区でオオタカ1羽の死骸より高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されました。また、現時点では鳥インフルエンザや農薬等化学物質は検出されていないようですが、2018年2月に埼玉県美里町でスズメ40羽の死骸が確認されました。環境省では、野鳥との接し方について、以下の注意喚起を行っていますので、ご注意ください。

○同じ場所でたくさんの野鳥などが死亡している場合には、お近くの都道府県や市町村役場にご連絡ください。

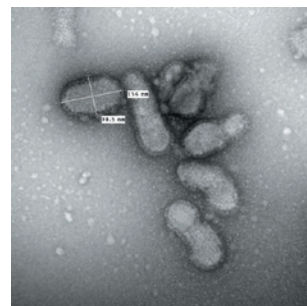
○死亡した野鳥など野生動物の死亡個体を片付ける際には、素手で直接触らず、使い捨て手袋等を使用してください。

○日常生活において野鳥など野生動物の排泄物等

に触れた後には、手洗いとうがいをしていただければ、過度に心配する必要はありません。

○野鳥の糞が靴の裏や車両に付くことにより、鳥インフルエンザウイルスが他の地域へ運ばれるおそれがありますので、野鳥に近づきすぎないようにしてください。特に、靴で糞を踏まないよう十分注意して、必要に応じて消毒を行ってください。

○鳥インフルエンザウイルスは、野鳥観察など通常の接し方では、ヒトに感染しないと考えられています。正しい情報に基づいた、冷静な行動をお願いいたします。



出典：環境省「高病原性鳥インフルエンザに関する情報」http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/

画像：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構「鳥インフルエンザウイルスの電子顕微鏡写真」より

☆会員状況

2017 年度更新済み（2 月 25 日現在）

正会員(個人) 45

正会員(団体) 2

賛助会員 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★2018 年度の継続更新、引き続きよろしくお願いします。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

彩の国南西部地域NPO連絡会

川の国応援団

埼玉県生物多様性保全活動団体登録

彩の国みどりのサポーターズクラブ

志木市公園美化活動会

志木市放課後子ども教室りんくす

志木市立教育サポートセンター

市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

『いきもの図鑑』作業状況

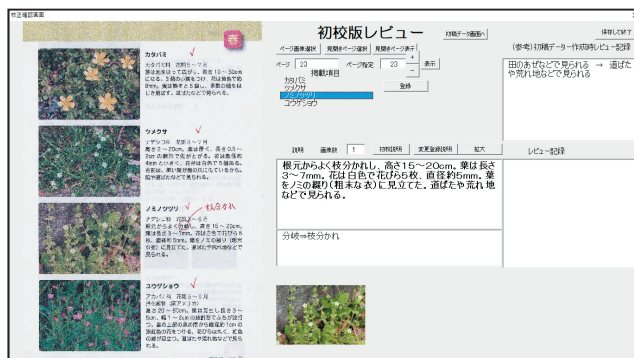
初校版は4月を目指して進行中

12月に残っていたAチーム分（樹木、昆虫、クモ、その他）の初稿データについて、レビューがやっと完了しました。この初稿データを元に、初校版作成に着手しました。

Aチームの掲載項目が一番多く、レビューにかなりの時間をかけてきました。樹木についていえば、不足している花の写真や実の写真を撮るには、翌年になってしまうといったことになり、かなりの期間が必要になります。昆虫等についても卵から成虫までの写真をそろえるには、時期を待つ必要があります。また、見開きページにある種類の種を纏めて掲載するための写真枚数の工夫等もあり、掲載ページへのマッピングに手間がかかっていました。そういう意味で、Aチームも含めた全体の初稿原稿となるデータが完了したことは、大きな山をクリアしたことになります。

初校版は、4月を目指して作業を進めていますが、できればBチーム分とCチーム分の校正結果も盛り込みたいと思っています。大分前に印刷されたBチームとCチームの初稿版については各チームで校正作業が終わっています。2月・3月では、全体レビューで最終的な確認をして、Aチームの初稿版に併せて反映し、生き物図鑑の全体を印刷したいと思います。

（青木明雄）



バッタ目にはバッタ、コオロギ、キリギリスなどの仲間が含まれます。不完全変態を行い蛹の時期はありません。後脚が非常に発達して大きな跳躍力を持っています。成虫には翅がありますが、退化して飛べないものもあります。

その内バッタの仲間は、キリギリスやコオロギと比べて触角が短いのが特徴。草原に棲みイネ科の葉などの植物を食べます。雌に比べて雄がかなり小さいのも特徴です。

トノサマバッタは夏から秋にかけ、河川敷や土手でよく見られますが、頭部が四角いバッタの代表格で、全長が35～65cmのがつしりした体形。年に2回発生しますが、幼虫は翅がなく、腹部が短い割には頭部は大きく、頭でっかちな感じがします。

ツチイナゴは名前にイナゴと付いていますが、むしろトノサマバッタに近い種で、成虫

はうすい褐色ですが、幼虫は明るい緑色。バッタ類では珍しく成虫で越冬します。

イナゴの仲間が多いのはコバネイナゴ。翅が腹の先端、あるいは後肢の関節まで達しないのが特徴。翅が長く突き出しているハネナガイナゴは少なく、埼玉県では準絶滅危惧種ですが、実際にはコバネイナゴでも翅の長いタイプがいて、同定は難しいです。体の側部は緑色で背中褐色です。

頭部が尖っているバッタの代表がショウリョウバッタ。体長が40～80cmもあり、雌はバッタでは最大です。頭の先端の細くなった所に目があり、その先のがつちりした触角も目立ちます。雄はチキチキチキと鳴きながら飛びます。

オンブバッタも頭部が尖っていますが、ずっと小さく、交尾時以外でも雄が雌の背に乗っている姿がよく見られます。



トノサマバッタ 下が雌



トノサマバッタの幼虫



コバネイナゴ



ヨシの葉を食べるイナゴ



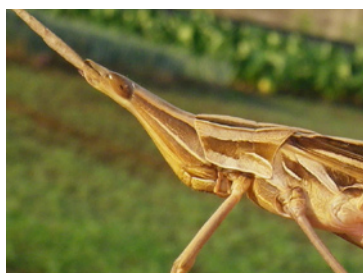
ツチイナゴ



ツチイナゴの幼虫



ショウリョウバッタ



ショウリョウバッタの頭部



オンブバッタ 下が雌で交尾中

小笠原の旅

宇津木 美恵子



その7 海—アオウミガメ

小笠原はアオウミガメの産卵場所として有名な場所の一つです。

5～6月が産卵時期。夜になると砂浜に母親ガメが上陸してきます。海では優雅に素早く泳ぐウミガメは、陸上ではきわめてのろまのカメさん。鰭状の前足を前後に動かしながら、重たそうな体を引きずって前進します。砂浜には、まるで、キャタピラの後のような足跡がつきます。

夜の何時頃上陸してくるかはウミガメ次第。夜の9時頃の時もあれば明け方3時頃のこと。

何度か夜に砂浜まで足を運んで、産卵の様子を見に行きました。一度だけ、ウミガメの呼吸の音を聞きつけたので、じっとそばに構えて、産卵し、砂で丁寧に埋め、海に戻っていく様子を観察することができました。真っ暗な海岸。光で照らすことは禁じられています。

さらにシュノーケリングしていた時、小さなウミガメが泳いでいるところを見ることができました。また、カヤック途中では、海面から顔を出して息継ぎしているウミガメの頭を度々見ることができます。

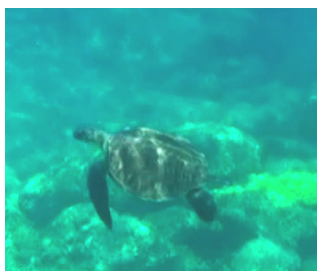
小笠原では、ウミガメの保護をしています。一方、一定の数だけは漁することが許されていて、ウミガメの刺身や煮込みが、島の名物として飲食店で出されます。刺身は赤身。おいしい～～。煮

込みはモツ煮込みのよう。レバーはちょっと好き嫌いあるかな、って感じでした。海洋センターではウミガメの飼育がされていて、キャベツや肉の餌やりもできました。

かわいい、大切なウミガメ、観察したり出会ったり食べたり・・・ウミガメの世界をたっぷり満喫しました。



アオウミガメ



ウミガメの遊泳-1



ウミガメの遊泳-2



産卵のために掘った穴
産卵まで至らず放棄・・・木の根が絡んで産卵場所とふさわしくないと考えたのであろうか



父島扇浜での足跡

編集後記

◇「志木の生き物調査」は、冬の為「柳瀬川水族館」ではなく、すべて市内のいろいろな場所を歩いての調査となりました。雨で中止となった「志木ぶらり散歩」の実施、「柳瀬川の自然観察会(冬)」も含めると良く歩いて回りました。もうすぐ春です。斜面林や公園の木々が芽吹き、若葉で覆われることを楽しみにしましょう。(青木明雄)

エコシティ志木通信

第89号 2018年3月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com